

地 球 温 暖 化 対 策 計 画 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社 辰巳商会
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	大阪市港区築港4丁目1番1号
工場等の名称	株式会社 辰巳商会 名古屋ケミカルターミナル
工場等の所在地	名古屋市港区潮見町37番地16
業 種	サービス業（他に分類されないもの）
業務部門における 建築物の主たる用途	その他
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	油槽所業務及びその他関連業務
計 画 期 間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公 表 期 間	令和4年7月28日 ～ 令和7年3月31日		
公 表 方 法	☒	掲 示 閲 覧	（場 所） 事務所受付
	☐	ホ ー ム ペ ー ジ	(HPアドレス)
	☐	冊 子	(冊子名・ 入手方法)
	☐	その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-611-4611		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当事業所は、地球温暖化対策をはじめとする環境保全の重要性を踏まえ事業活動を通じ、地域社会へ貢献いたします。

1、省資源・省エネルギー活動の推進

事業所で使用する燃料、電気等のエネルギー使用量を今後3年間で3%削減する。

2、産業廃棄物の排出抑制、リサイクルの推進

産業廃棄物の排出を抑制すると共に、ゴミの分別を行い再資源化に努める。

3、従業員への教育

従業員に対して環境教育を実施する。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

事業所長 → 推進員 → 従業員

指針第1号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,036	t-CO ₂
①を除外 （二酸化炭素換算） 温室効果ガス排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	3,036	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総排出量	3,036	t-CO ₂	2,945	t-CO ₂	3.0	%

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位あたりの 排出量		CO ₂		CO ₂		%

（2）目標設定の考え方

温室効果ガスを、1年間に1%、3年間で3%削減する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	・エアコンの室温調整 ・不使用室の空調停止 ・窓にブラインド設置等を行い日照負荷を抑える。	
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	・使用していない部屋の照明を消す。 ・構内照明を省エネルギー型の器具に取替える。	・照明器具の更新時に省エネルギータイプの器具を選定する。
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	・退社時にOA機器の電源を切る。	
省エネルギー・省資源の行動の実践・設備運転の効率化	・ボイラー運転時に高効率の機種を優先的に使用する。	
自動車利用における取り組み	・エコ運転、アイドリングストップの推進。	

指針第1号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

・電気及び燃料の節約、省エネルギーに努める。
